

蛇婿入

梗概 あれは離島のはずなんだけどねえ。もう大変あれだったって、神の使いだからね。自分の娘は、十四、五なんだけどね、もういつの間にそうなったのか身重になった。それで親が聞いてみたら、「こうこうで、夜中に大変りっぱな侍のような男がくるよ。」といったので、「ああそうなのか、それで、今日もくるのか、明日もくるのか。」と聞くと、「毎日くるよ。」といった。ハブだったわけだよ、ハブ。それで、その親もまたね、「そうか、これはもうたしかに、その行方をさとらないといけないね。」と教えた。「その人がきた時に、着物の裾に、針に糸を通して、この針でしるしをしなさい。」と。それで、男は美男子だけど、自分は身重になってしまったので、もうこれは大変だと思って、針を刺して行かせた。その糸を追って行くと、石垣だといわなかったかね。それはわからないけどね、この石の上にここにいて、頭に刺されたのか、どこに刺されたのか、刺されたんでしょう。死にそうになりながら、「あなたに、私が子どもを授けたからね、私は神だよ。私は神だけど、お前に女の子を三人産ませるから、三つになったら、私はどこどこにいるから連れてきなさい。」といって……。そうして、そのころになって連れていくと、死ななかつたのでしょう。このハブはね、子どもたちを見てなめまわして、女の子はなめられても驚かなかったんだって。それで、「お前はどここの守り神になりなさい。お前はどここの神になりなさい。」と三人をこのハブが連れて行って、母親は帰したんだって。その話。

話者情報 1907（明治 40）年生まれ 女性
記録日 1983 年 3 月 25 日
分類 本格昔話